

まきどき・植えどき・収穫どき  
**どきどき情報 9月**

**野菜の作業** 秋～冬期にかけての品目確保と来年の生産に  
むけての準備をしましょう！

種まき	定植(植付け)	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・タマネギ</li> <li>・ホウレンソウ</li> <li>・シュンギク</li> <li>・コマツナ</li> <li>・ネギ</li> <li>・地ダイコン</li> <li>・ラディッシュ</li> <li>・野沢菜</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハクサイ</li> <li>・タアサイ</li> <li>・チンゲンサイ</li> <li>・ニンニク</li> <li>・イチゴ など</li> </ul>	<p>今年の秋野菜をは種する場合のポイント 毎日暑い日が続いていますが、今年は9月になっても暑い日が続くという気象予報が出されています。 このような天候下での秋野菜のは種を行う場合の注意したい点をいくつか紹介します。 まず、は種時期ですが、高温が続くことから発芽適温や早すぎるのは種は害虫やウイルス病が発生しやすくなるなど理由から例年より遅らせましょう。 次に、乾燥と暑さ対策ですが、は種床は事前にかん水を十分行うとともに、は種後は覆土の鎮圧を丁寧に行い寒冷紗などで直射日光を抑えるなどの対策を行います。 そして、ウイルスを伝播するアブラムシなどの害虫に対する予防防除も重要で、発芽直後から徹底します。 また、日々のかん水は、夜温が高い状況の中での夕方のかん水は苗の軟弱徒長を助長しやすくなることから朝の涼しい時間帯に行うようにしましょう。</p>
	<b>収 穫</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホウレンソウ</li> <li>・ブロッコリー</li> <li>・ピーマン</li> <li>・キュウリ</li> <li>・トマト</li> <li>・カボチャ</li> <li>・リーフレタス</li> <li>・サツマイモ など</li> </ul>	

**果菜類の草勢の維持管理**

高温乾燥と着果負担等から多くの果菜類は草勢が低下していると思われます。

そこで、少しでも草勢を回復させ、収量を確保するための管理のポイントを紹介します。

現状の草姿はどのような状況でしょうか。病虫害の被害に遭った葉などはありませんか。また、枝や蔓などは混み合っていないでしょうか。

まず、整枝、摘葉、不良果などの除去を適宜行い、通風・採光・草勢維持に努めます。

特に下葉や病葉の除去を行うとともに、ナス・ピーマンなどではふところ枝や下枝整理を行い「風通し」を良くすることが大変効果的となります。なお、このとき一度にたくさんの葉や脇芽等を除去すると草勢が低下しやすくなることから、何回かに分けて行います。

また、降雨時の作業は病気の発生を助長しやすくなることから注意してください。

そして、保水対策や地温の上昇を防ぐための、敷きわらなどが不足しているような場合は追加します。かん水は、少量多回数が基本となり、生育状況や土壌の状態を観察しながら遅れないように行い、できるだけストレスを与えないようにしましょう。

なお、かん水と同時に液肥を用いての追肥を行うと省力的で効果も得やすくなります。

追肥量や追肥間隔は草勢、収量などをみながら行いますが、キュウリでは1回に1アール当り窒素・加里とも成分で0.1～0.2kgを5～10間隔で、ナスでは1回に1アール当り窒素・加里とも成分で0.3～0.5kgを20日程度の間隔で行います。

最後に、まだまだ暑さが続くことなどから、アブラムシなどの害虫防除にも注意が必要となりますが、収穫期での薬剤散布は、使用する農薬の登録内容を確認し、葉の裏まで薬剤が届くように丁寧に散布することが大切です。

**長ネギの作型と苗づくり**

本県では秋まき作型が主体ですが、近年8～11月の出荷要請も高まっており、春まきタイプの品種(夏扇2号など)を早春ハウス育苗して秋どり(8月中旬～11月下旬)する作型も定着してきています。そこで、秋まきの時期ですが、今回は早春まき(ハウス育苗)作型の育苗方法を紹介します。なお、秋まき作型については、どきどき情報のNO.72を参照ください。

早春まき作型は、2/中～3/中のは種、5/上～中の定植で、8/中～11/下に収穫するという作型です。ハウス育苗となることから、は種床はハウス内でトンネル被覆ができる床幅に作り、5～8cm間隔で条播きし、かん水の後、乾燥防止のためのベタがけ資材を張り、トンネル被覆を行い保温します。は種後は10～15日で発芽するのでベタがけ資材を除去し、トンネル内の気温が25以上にならないように換気するが、逆に夜間は、まだまだ寒いので保温マットなどで覆います。高温と乾燥の急激な変化による葉先枯れに注意し、草丈が10～15cmの時に追肥を行います。なお、春のハウス育苗では、箱育苗(連結紙ポット・セルトレイなどでの育苗)も可能となります。



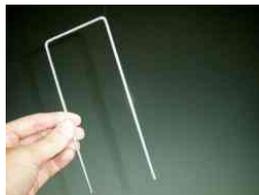
## 農業豆知識

### 《使って便利な農業資材》

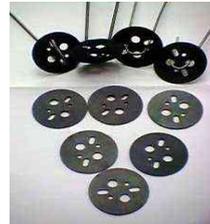
#### マルチ押さえのタイプと特徴



**T字型プラスチックタイプ**  
主にマルチの押え等  
(足の長さに種類多い)



**U字型金属タイプ**  
同 左  
(幅や長さ等種類多い)



**丸型押え + U字型金属**  
ベタガケ資材の押え等



**強力タイプ**  
各種シート押え等

\* この他にも様々なタイプ、使用方法等がありますので目的によりご検討ください。

#### 動力噴霧器のノズル・噴口(種類と特徴)

ノズルは、圧力のかかった薬液を断面積の小さな穴から吐出させることにより、霧状にしたりまするもので構造面からジェットノズル・渦巻きノズル・扇形ノズルがあり、中でも渦巻きノズルが多くの場合で使用されていると思います。形状面からは鈴蘭噴口、丸型噴口、二頭・三頭等の多頭噴口などがあり、機能面では渦巻きタイプのほか、薬剤が扇状に広がる広角タイプや除草剤用の泡状噴霧で飛散を抑える少量散布タイプの噴口などがありますので、使用目的や薬剤の種類等によって適したものを選択し、省力的、効果的に散布を行ってください。



## 水稻収穫適期予測



出穂期以降の平均気温を足し上げる「積算気温」により収穫開始日を予想しています。

表の見方としては、「700m地帯のあきたこまちで、出穂が8月5日であったとすれば収穫開始日は9月13日と予想される」というものです。

品 種 名	登熟に要する積算気温	標高	出穂期	収穫開始予想日	備 考
あきたこまち	1,000	700m	8月5日	9月13日～	本年は、平年より出穂が3～5日早いので「帯緑色籾歩合」等を見て判断することが重要です
コシヒカリ	1,020	500m	8月10日	9月20日～	

刈り遅れは「胴割れ米」の発生を助長します。計画的な収穫ができるようコンバインや乾燥施設の整備は早めに行うとともに今後も暑い日が続くと予想されることから特に水管理に注意し、田面が過度の乾燥状態にならないようにしましょう。

#### 【帯緑色籾歩合による収穫期の判定】

- ・「帯緑色籾歩合」とは緑色の籾が1穂内に占める割合のことです。
- ・1穂内の緑の籾が「10%」程度が収穫開始適期ですが、今年はやや早めがよいでしょう。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター  
中澤普及指導員 (25-7157)